

常に少なく、今後も既出問題を暗記ではなく理解して解き、出題されている内容を応用できるようにする必要がある。

■「化学」

難易度は、「必須問題」はやや平易、「理論問題」は中等、「実践問題」は化学：やや難、実務：中等であった。必須問題は近年の傾向と同様、全ての間で構造式が出題されていた。また生体成分のアミノ酸の部分構造と関連させて塩基性の強さを問う問題もあった。理論問題は近年の傾向と同様、生薬の1題以外は構造を絡めた問題であった。化学反応の問題は、単に反応生成物を問うのではなく、反応機構を理解した上で解答する問題も出題された。実践問題の化学は、医薬品の作用機序を化学反応で問う問題、グルタチオン抱合体の構造を問う問題など、医薬品に化学反応を絡めた出題が見られた。全体的に構造を絡めた問題、生体成分や医薬品を絡めた問題など、暗記ではなく、構造を見て判断させる問題が多く出題されていた。生薬は、既出の「日本薬局方」生薬ではなく、初出題が例年に比べ多かった。

■「生物」

難易度は、「必須問題」は平易、「理論問題」は難、「実践問題」は生物：やや平易、実践：中等であった。必須問題は、既出問題の内容を理解していれば解答を導きやすい問題であった。例年通り、模式図(消化器)を用いた問題や真菌の特徴を問う基本的な問題が出題された。理論問題は、近年では最も難易度が高かった。図や構造式などを用いた問題は5題あり、siRNA導入実験、移植片拒絶反応と遺伝子型に関する問題は初出題であった。既出問題の知識だけでなく、幅広い深い知識と文章の読解力、考える力が必要とされた。実践問題は、「バイオ後続品」、「エコノミークラス症候群」、「褥瘡」、「統合失調症」、「高カロリー輸液療法」など、より実際の医療現場を意識した問題が出題された。全体的としては、既出類似問題が複数出題されているが、一方でバイオ医薬品や褥瘡の問題に見られるように、今まで以上に医療を意識した幅広い深い知識が求められる問題が多く出題された。

■「衛生」

難易度は、「必須問題」はやや平易、「理論問題」は中等、「実践問題」は衛生：やや平易、実務：平易であった。必須問題は、構造の知識を問う問題が多く、毎年話題となった感染症などの事項が出題されるが、今回は風疹やE型肝炎について2題が出題された。理論問題は、計算問題が例年と比べて多く出題された。法律に関しては、101回に引き続き、新たに制定された食品表示法の内容に関する出題があった。実践問題は、既出問題を理解していれば解ける問題が多かった。「高カロリー輸液」、「予防接種」、「乱用薬物」、「医療

廃棄物」、「話題性のある感染症(院内感染症や性感染症)」などが出題された。また、学校薬剤師に関する問題が2題と多かった。全体的に、近年とほぼ同じ難易度であった。基本は既出問題の知識で解けるものではあるが、図表などでの出題が多いため、問題を解く前にまず問題文をよく読み内容を理解することが重要である。

■「薬理」

難易度は、「必須問題」は平易、「理論問題」は中等、「実践問題」は薬理：やや平易、実務：やや平易であった。必須問題は、既出の薬物名及び作用機序を問うものが中心であった。また、シルデナフィルと硝酸薬の相互作用、利尿作用を生体物質の変化で問う問題など新傾向の問題も出題されている。理論問題は、未出題薬物の作用機序を問う内容も出題されているが、既出問題の内容を理解していれば正解を導ける問題がほとんどであった。また、化学構造から考える問題、薬理と治療との連関など、新傾向の問題があった。実践問題は、現場を意識した内容が中心であり、初めの問題で正解を導けないと、次の問題も正解することができないものが多く出題された。新傾向では、検査所見から原因医薬品を推定する問題が出題された。全体として、未出題薬物も出題されたが、既出薬物の作用機序を理解していれば正解できる問題であった。しかし、病態・薬物治療との複合性が高い問題が出題されており、既出内容の徹底した理解と治療との壁をなくした学修が求められる傾向であった。

■「薬剤」

難易度は、「必須問題」はやや平易、「理論問題」は中等、「実践問題」は薬剤：中等、実務：やや難であった。必須問題は、既出の知識を中心とした出題であり、既出問題の知識が定着している学生には得点しやすい問題であった。また、薬剤では初めて化学構造を選択肢に使用した出題もあり、出題の切り口の工夫がうかがえる内容であった。理論問題は、幅広く学習をしていた学生は得点しやすい問題であった。また、物理薬理学の範囲では物理化学(基礎)に近い内容の出題が見られた。製剤学の範囲では17局改定内容についても触れた出題があった。実践問題は、現場で実際に使用されている薬物を中心とした出題であった。病院薬剤師の現場を想定した出題が多数みられた。また、製剤学の範囲で

表4 薬剤師国家試験問題区分と合格基準(改訂後)

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問 (複合問題)	60問
衛生	10問	30問	20問	10問 (複合問題)	40問
薬理	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問 (複合問題)	30問
実務	10問	85問	-	20問 + 65問 (複合問題)	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

※実践問題は、「実務」20問、及びそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる

は17局改定内容について触れた出題があった。全体的に、必須問題と理論問題は既出問題における出題内容の理解、実践問題では現場で使用される薬剤についての知識を意識した出題傾向であった。計算問題は例年通り出題されている。

■「病態・薬物治療と情報」

難易度は、「必須問題」はやや難、「理論問題」は難、「実践問題」は病態・治療：中等、実務：やや難であった。必須問題は、病態・薬物治療10題、情報・検定5題の出題であった。情報・検定では、t分布に関する問題が新規の内容であった。理論問題は、病態・薬物治療11題、情報・検定3題、テーラメード1題の出題であった。全体に病態・薬物治療の問題は、比較的正確しやすいものが多いが、病態と生体リズムに関する問題など難解なものも含まれていた。情報・検定に関しては、検定手法を問う問題などが出題され、詳細を問う内容であり、難解であった。実践問題の患者の症状より重症度を判定し薬物を選択する問題、ブルーレーターが発出されている薬物に関する内容は、医療現場を反映する問題であった。インタビューフォームの情報を利用して解答する難しい問題も出題されていた。全体的に難易度が高かった。新規の疾患での出題はないが、今まで出題された疾患においても出題の傾向が変わり、より詳細な内容を問う問題が多かった。情報・検定に関しては、検定法の選択など実践的なものが出題され難易度は高かった。

■「法規・制度・倫理」

難易度は、「必須問題」は平易、「理論問題」はやや難、「実践問題」は法規：中等、実務：平易であった。必須問題は、9割以上得点することも可能であったと考えられる。内容は

97回以降の国試で既に出題されたものが多かった。理論問題は、医薬品医療機器等法の問題が3割と多かったが、他の問題は偏りなく出題されていた。例年よりも解答し難い問題が増えており、半数以上の問題に1~2記述は新傾向または10年以上前の既出問題の記述が見られた。なお、旧制度名が関係する問題が初めて出題された。実践問題は様々な場面で薬剤師としての対応を求める問題が多かった。個人情報の保護に関する法律、CRCとしての役割は新規の内容が3~4記述含まれており、より深い知識や考える力が求められた。また、医薬品・医療機器等安全性情報報告書を用いた記入事項に関する内容は初めて出題され、実践的な問題であった。全体的に、近年の試験では最も難易度が高かった。範囲は満遍なく出題される傾向は変わらず、内容については、既出問題中心の知識だけでは解答を導けない問題が増加している。

■「実務」

難易度は、「必須問題」は平易、「実践問題：実務の単問」は中等であった。必須問題は、薬剤師業務の基本的用語~漢方の副作用と基礎的な内容、病院や薬局に関する業務内容についての出題、既出問題に類似した内容が多く出題されており、得点しやすい問題であった。特定生物由来製品や血液汚染など血液関連問題が多く(3題)出題されている。また、新しい用語(MMS E)についても出題された。実践問題(実務)は、副作用・中毒関連の問題、計算問題、注射・輸液関連の問題が多く、出題範囲に偏りがあった。また、考える力や問題解決能力を必要とする問題も多く出題されていた。全体的に、既出内容の理解や計算問題・情報活用問題など新問への対応ができれば得点は伸びたと思われる。実務実習の成果を問う問題も多く出題されていた。

全国
238店舗

調剤もキャリアも。イオンでひろがる活躍の場

キャリアパスに合わせて「地域限定」、「エリア」、「全国」
3つの人事コースを選択可能！
ライフスタイルを支える福利厚生制度も充実しています

AEON
イオンリテール株式会社

全国各地で会社説明会開催中！
マイナビ2018、めでいしーんねっと2018より
エントリーお待ちしております！

